

45年前のルーマニア滞在記

櫛橋 義雄 (S41 制御)

当時共産党一党独裁体制のもと旧ソビエト連邦の一員であったルーマニアで最新鋭の鉄鋼コンビナート建設が1964年から1970年にかけて行われた。

その中のドロマイト煉瓦プラントの建設及び稼動は日本が担当し、技術指導のため6社で派遣団を結成。コンビナートのあるソ連国境に近いガラチ市で作業にあたった。

その一員として7ヶ月間滞在した経験およびその前後の出来事をお話する。

鉄鋼コンビナートの概要

- ・ルーマニア国ガラチ製鉄所 粗鋼生産量 450万トン

担当国 高炉（ソ連）、転炉（ドイツ）、圧延（フランス）、耐火煉瓦（日本）

日本の役割と構成

- ・年25000トン生産可能なドロマイト煉瓦プラントの建設・据付・操業指導
- ・煉瓦プラントは粉砕機・プレス機・ベーキング炉で構成され

品川白煉瓦、川崎重工業、安川電機、日本ファーンレス、上滝圧力機、立石電気が参画

作業スケジュール

- ・ 1966年1月から国内で試験運転
- ・ 1968年6月派遣団の結団式… 結団式後、順次現地へ出発



(写真1…結団式にて)

派遣団の構成は品川白煉瓦7名、

その他は1社1名、

以上 合計12名

【 その後、プラント現地(ルーマニア-ガラチ)で 担当業務(建設・据付・操業指導)を実行 】

- ・ 1969年7月より順次帰国、計画より大幅遅延
- ・ 1970年1月派遣団の解団式

現地での主な出来事

- ・ チェコ動乱 1968年8月 … ソ連侵攻に備え地方へ避難
- ・ 受け入れ側の準備不足 … 建築物など工場全体の建設遅れ・停電頻発・暖房設備不備・材料未到着
- ・ 役職制度の日本との違いにより、指導すべき相手が当初不明確
- ・ 盗難事件 … 「現場では計器・工具や装置に使用中のランプ・電線」
「住居では現金・電化製品・現地での購入品」
- ・ 密告制度 … 行動は常に把握され、電話連絡や写真撮影も制限された
- ・ 生活基盤の不便さ … 食料品不足、冬季の寒さ、停電、水の汚さ

帰国後の状況

- ・ 派遣団の中に蔵前1名、如水会1名の先輩がおられ、大いに勇気づけられた。
- ・ 現地では想像以上の困難さであったため団員に強い絆が生まれ現在まで交流を暖めている。
(交流会の状況 = 写真2参照)



2002年 R G 会

於：望月旅館 (2002年6月15日)

写真2

以上